

平成 28 年度 長浜市有機農業推進協議会委託調査

長浜市有機野菜に関する意向調査 実施報告書

平成 29 年 1 月

株式会社中広

メディア戦略室 フリモ・AR 課

はじめに

長浜市は、滋賀県一米の生産が盛んな農業地域です。しかし、近年米の価格低下や生産調整、農業の後継者不足などに悩まされています。

長浜市では、平成 26 年に「長浜市農業活性化プラン」を作成し、平成 26 年から平成 35 年までの 10 年計画をたて、「人を結び、人を育み、人を動かす ながはま 農コミュニティプロジェクト 協働でつくる風土を活かした笑顔あふれる長浜農業」を実現するために (1) 農を支える人材育成 (ひと)、(2) 持続的な農の経営 (もの)、(3) 農コミュニティの醸成 (交流・連携) を基本方針として掲げています。

持続的な農の経営、農産物の高付加価値化による農業収入の向上を目的として、有機農業を推進する動きがあり、平成 28 年 6 月 21 日に、長浜市有機農業推進協議会が設立され、有機農業を推進していく体制が整いました。平成 29 年 3 月には小谷城スマートインターチェンジの完成が予定されており、基幹産業のひとつである農業にも重点をおいたまちづくりを検討しています。この度、長浜市有機農業推進協議会は、長浜市民と長浜市内における飲食店を対象に「有機野菜に関する意向調査」を実施し、調査結果を用いて長浜市における有機農業の可能性に関する考察を行います。

本報告書の構成は次のとおりです。まず、1 章にて長浜市の概況と有機農業を取り巻く状況を把握した上で、次に 2 章にて有機野菜に関する調査結果について考察を行います。最後に 3 章で今回の調査のまとめについて述べます。

1. 長浜市の概況と有機農業を取り巻く状況

1-1 長浜市と長浜市における農業の概況

長浜市は、琵琶湖、その北岸に広がる平野部から丘陵部、1,000mを越える伊吹山系の山々を背にし、姉川や草野川、高時川、余呉川に挟まれ、下流に扇状に広がる沖積平野です。湖辺部を中心に重粘土質土壌系の農地が多く、河川に近い農地は砂壤土が多くなっています。

気候は、北陸型の日本海側気候の特徴を持っているため、北側山間部には豪雪地帯が広がり、旧長浜市・旧浅井町・旧木之本町・旧西浅井町は豪雪地帯に、旧余呉町は近畿地方唯一の特別豪雪地帯に指定されており、冬期は雪が非常に多いです。

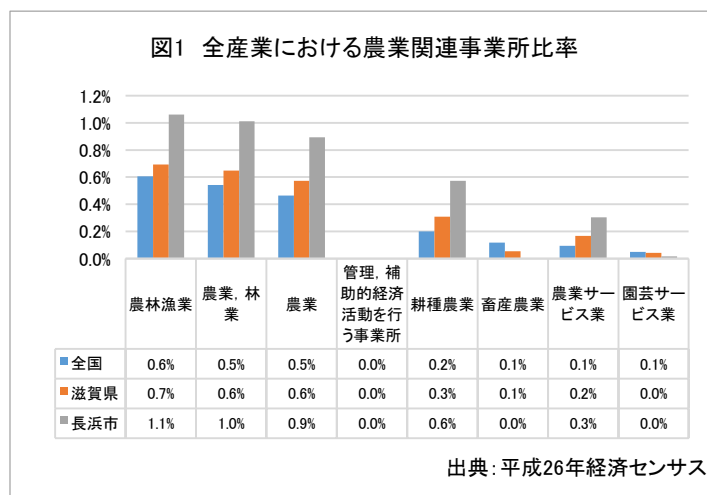
気温は、昭和56年から平成22年までの平年値で、平均気温は13.9℃、最高平均気温は8月の31.5℃、最低平均気温は1月、2月の-0.75℃ですが、近年は、異常気象で暑さの厳しさ、降雨量が多くなってきています。平年値の気温でみると、水稻、大豆、麦の土地利用型農業に適した気候です。しかし、降雨量が多くなると、大豆や麦、野菜への影響が発生します。なお、北側山間地域は降雪があるため、冬季の作付けは難しい状況です。

平成22年の土地利用状況は、「森林」が約7割（69%）と最も多く、次いで、「農地」が約2割（15%）と続き、「水面・河川・水路」や「道路」などは少ないです。また、土地利用における地目別の推移は、平成13年から平成22年までの9年間で、「農地」が約0.6%減少し、「宅地」が0.3%、「道路」が0.1%、「その他」が0.2%増加しています。

農業生産の基礎的資源である田では、稲作主体の生産を行っていますが、「農地」は減少傾向にあり、「宅地」や「道路」などが増加傾向にあります¹。

平成26年経済センサスによると、長浜市における農林漁業事業所比率は、全国比率と同じ0.3%であり、2,929事業所が存在します。農林漁業の内訳をみると、農業の比率が全国、滋賀県の比率に比べ高い数値であり、主要産業といえます（図1）²。ただし、主な産業は製造業であり、全国に比べ高い比率です。

国勢調査における農業就業者数の推移をみると、平成12年から平成22年の10年間で2,723人（4.4%）から1,928人（3.3%）と、795人減少し、第1次産業全体では、832人減少しています³。



¹ 長浜市「長浜市農業活性化プラン」（2016.07.07アクセス）

<https://www.city.nagahama.shiga.jp/index.cfm/6,32138,77,574.html>

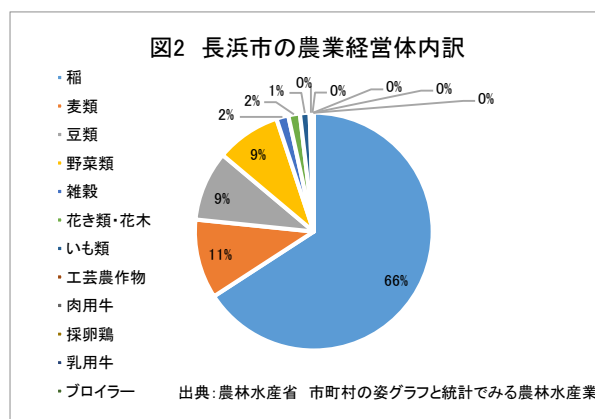
² 総務省統計局「平成26年経済センサス」（2014）

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001068220&cycocode=0>

³ 総務省統計局「平成12年国勢調査第2次基本集計」（2016.12.07アクセス）<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2000/>

総務省統計局「平成22年国勢調査産業等基本集計」（2016.12.07アクセス）<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/>
括弧内は長浜市の総就業者数における農業就業者数の比率を表す。平成12年の数字は旧浅井町・びわ町・虎姫町・湖北町・高月町・木之本町・余呉町・西浅井町を含む。

米は我が国の農業における基幹作物であり、平成 26 年の米の農業産出額は 1 兆 4,343 億円です⁴。平成 30 年には、米の生産調整の見直しが予定されており、生産者や集荷業者・団体が、需要に応じてどのような米をいくら生産・販売するかなどを自ら決められるようになります。これは、経営の自由度拡大を目指すものですが、稲熊氏（2014）によると、2つの課題が指摘されています。



(1) 生産者や JA などの集荷業者・団体が中心となって自主的に取り組む体制で、需要に応じた生産を実施できるかどうか。

(2) 主食用米から飼料用米などへの転作が円滑に進むかどうか。

過剰作付が生じると、米価は大幅な下落が生じ、米の主業農家が大幅な打撃を受けることが懸念されています⁵。

長浜市では、平成 27 年の農業経営体のうち「稲」は 66%を占めており、米の生産が主です（図 2）⁶。

長浜市の平成 27 年度農業経営に関する意向調査によると、今後の経営規模を「拡大したい」と考える農家は 5%、「現状維持」が 58%、「規模縮小」が 12%、「いずれやめたい」が 25%であり、経営規模は縮小傾向にあります。

農業経営を継続する上での問題点は、「米価の下落」が最も多いです（図 3）。しかし、平成 30 年の米の生産調整見直しについて、「規模拡大、現状維持及び法人の構成員の方で、平成 30 年から生産調整（転作）が見直しされ、米の需給調整が生産者にゆだねられたら何を作付けしますか」という質問に対し、約 4 割が「全て主食米を作付する」と回答しており、指摘されている過剰作付による米価の下落も懸念されます（図 4）⁷。

長浜市では、農業就業人口の減少や 65 歳未満の基幹的農業従事者の減少、高齢化の進行、農産物価格の低迷などの課題を抱えており、課題解決のために「長浜市農業活性化プラン」を策定しています。これは平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間の計画です。

課題としては (1) 担い手の育成、(2) 持続可能な農業経営の確立、(3) 安全・安心な農産物の販路拡大、(4) 環境の保全、(5) 農による交流促進が挙げられ、最大の課題は「いかに、農業を持続可能な産業として確立するのか」です。

上記の意向調査によると、「今後長浜市の農業を持続可能なものにするため、どのような施策が必要ですか」という問いには、「米価の安定」が最も多いですが、「将来設計ができる一貫した農業施策」、「担い手の育成」という声も目立ちます（図 5）。

⁴ 農林水産省「農業生産に関する統計（1）」（2016. 12. 08 アクセス）<http://www.maff.go.jp/j/tokei/sihyo/data/05.html>

⁵ 稲熊利和「米の生産調整見直しをめぐる課題 — 過剰作付・米価下落への備え —」『立法と調査』（2014）

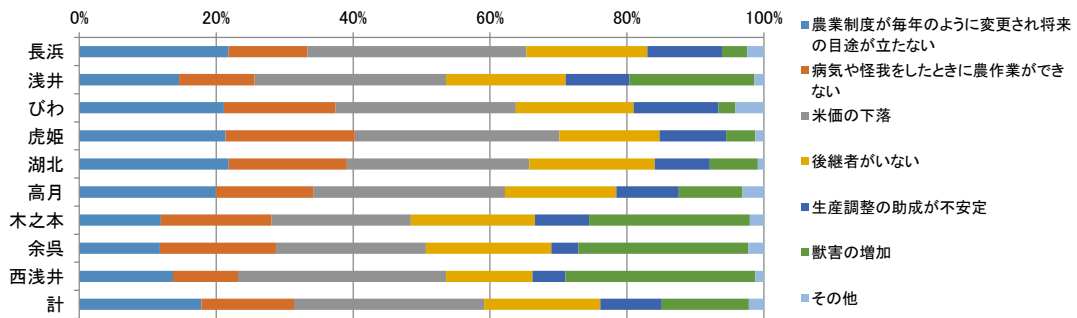
http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2014pdf/20140701033.pdf

⁶ 農林水産省「市町村の姿 グラフと統計でみる農林水産業」（2016. 12. 02 アクセス）

<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/25/203/index.html>

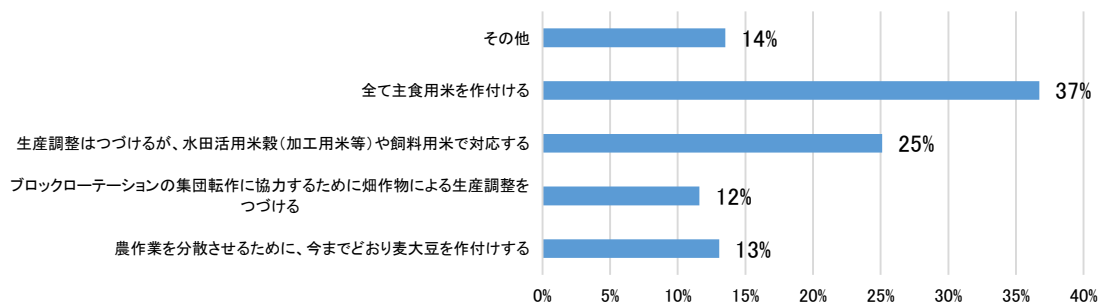
⁷ 長浜市「平成 27 年度農業経営に関する意向調査」

図3 農業経営を継続するにあたっての問題点



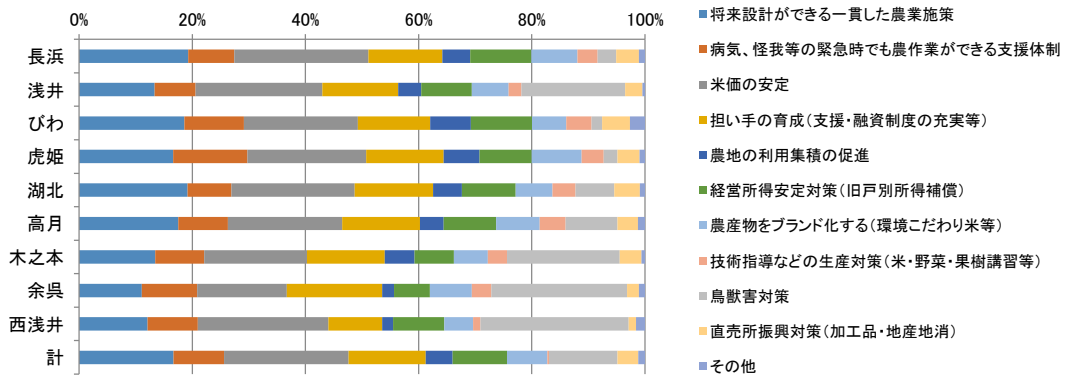
出典：長浜市 平成27年度農業経営に関する意向調査

図4 米の需給調整が生産者にゆだねられたら何を作付けしますか



出典：長浜市 平成27年度農業経営に関する意向調査

図5 長浜市農業を持続可能なものにするため、必要だと思う施策



出典：長浜市 平成27年度農業経営に関する意向調査

「人を結び、人を育み、人を動かす ながはま 農コミュニティプロジェクト 協働でつくる風土を活かした笑顔あふれる長浜農業」を長浜市の将来像と設定し⁸、将来設計ができる農業施策の一つとして、地域のバイオマス資源を活用した有機農業による農産物の高付加価値化が期待されています。

⁸ 長浜市「長浜市農業活性化プラン」(2016.07.07 アクセス)
<https://www.city.nagahama.shiga.jp/index.cfm/6,32138,77,574,html>

1-2 有機農業に関する先行調査

有機農業とは、平成 18 年 12 月に農林水産省より制定された「有機農業の推進に関する法律」に基づき、「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業」を指します⁹。

有機農産物の生産方法について基準を定めることを目的とし、有機食品の検査認証制度があります。この認証制度において審査を通過したものには「有機 JAS マーク」が付けられます。農薬や化学肥料などの化学物質に頼らず、自然界の力で生産された食品を表しており、農産物、加工食品、飼料及び畜産物が対象です¹⁰。

有機 JAS マークの取得に必要な項目は下記の通りです¹¹。

- (1) 化学肥料や農薬の使用を避けることが基本
- (2) 堆肥等で土作りを行い、種まき又は植え付けの前 2 年以上、禁止された農薬や化学肥料を使用していないほ場で栽培
- (3) 遺伝子組換え技術を使用しない
- (4) 使用可能な資材（農薬、化学肥料等）は限定

有機農業に対する消費者の理解・関心について、日本有機農業研究会による「平成 23 年度有機農業調査事業実需者（消費者）報告書」によると、「有機農業」という言葉から浮かぶイメージに合うものとしては、「安心・安全（63.7%）」「健康によい（48.9%）」が挙げられています。「有機農業という語を聞いたことがある」は 93.5%に上りますが、有機農業の定義や有機 JAS マークの認知度は半数程度のようなようです。米・野菜・果物等が有機であることへの関心は、「やや関心がある」が最も多いです。

有機素材の利用経験は、「農産物」が 46%、「いずれもない」が 37%であり、購入先は「スーパーマーケット」が最も多いです。日常的に有機農産物を購入する人は「自然食品店」や「生協・提携・宅配」での購入も多いです。

購入頻度別に入手先の情報源をみると、「店頭で実物をみて」が最も多いです。特に「たまに購入」は「店頭で実物をみて」が 79%と高く、次いで「チラシ・パンフレット」が続きます。「日常的に購入」は「インターネット」や「有機農産物即売会などのイベント」の回答比率も高く、普段から情報を得ているようです。

有機農産物に関わる活動でしてみたいことは、年代が上がるにつれ「直売所や即売会での購入」の比率が高くなっています。また、「有機農産物を使ったレストラン、カフェなどの利用」の回答も相対的に多いです。

有機農業の促進のために必要と考える支援に関しては、「有機農産物等が入手できる場所を増やす（41%）」、「有機農産物等が入手できる場所に関する情報の提供（38%）」が必要と考えられています。

⁹ 農林水産省「有機農業の推進に関する法律（平成 18 年法律第 112 号）」（2016.07.07 アクセス）
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/pdf/d-1.pdf>

¹⁰ 農林水産省「有機食品の検査認証制度」（2016.07.07 アクセス）
http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/youki.html#seido

¹¹ 農林水産省「有機 JAS 制度について」（2016.07.07 アクセス）
http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/pdf/yuki_jas_seido_150904.pdf

また、自分ができる支援としては、「有機農産物を積極的に購入するようにする」が最も多く、次いで「近所のスーパーや青果店に有機農産物を置くようにリクエストする」が挙げられています¹²。

1-3 滋賀県および長浜市における取り組み

NPO 法人 MOA 自然農法文化事業団による「平成 22 年度有機農業基礎データ作成事業報告書」によると、滋賀県内の有機農家は 18 戸です¹³。

滋賀県では、平成 28 年 3 月に滋賀県環境こだわり農業推進基本計画を策定し、その中で「環境こだわり農産物認証制度」をつくり、独自の判断基準を設けています。これは、化学合成農薬および化学肥料の使用量を慣行の 5 割以下に削減するとともに、濁水の流出防止など、琵琶湖をはじめとする環境への負荷を削減する技術で生産された農産物を県が「環境こだわり農産物」として認証する制度です。生産計画を申請して認定を受けることができ、認証された農産物には、県の認証マークを表示して出荷・販売することができます¹⁴。

長浜市は農産物の付加価値を見出したいと考えています。現在有機農業に関しては、意欲ある農家が自主的に取り組んでいるのみの状況です。減農薬栽培や無農薬栽培ではなく、有機栽培を推進する目的は、生ゴミや家畜排泄物などのバイオマス資源を活用した堆肥を作り、地域での資源循環の仕組みを確立し、総合的に農産物の価値を高め地産地消、地域活性化に結びつけていくことが挙げられます。今後土作り、技術指導により技術を高めるとともに、流通経路の確保、販路拡大が必要です。

販路拡大について、平成 29 年に小谷城スマートインターチェンジ（ETC 専用インターチェンジ）¹⁵が完成する予定です¹⁶。今回設置される小谷城スマートインターチェンジは、本線直結型で、北陸自動車道への乗り降りがスムーズになります。場所は長浜 IC と木之本 IC の中間地点であり、より市街地へのアクセスルートが増えることが期待されています。

長浜市では、新たな流通ルートができるとともに、新たなまちづくりを行う指針を公表しています。農業の六次産業化¹⁷も念頭におき、基幹産業としての農業との関連も行っていく予定です。

同時に、長浜市有機農業推進協議会は「土作り」「技術指導」「市場調査」に重点をおき事業を進めていく予定です。

¹² 日本有機農業研究会「有機農業に対する消費者の理解と関心に関するアンケート調査」『平成 23 年度有機農業調査事業実需者（消費者）報告書』（2011）<http://www.joaa.net/research/syohisya-h24-1.pdf>

¹³ MOA 自然農法文化事業団「平成 22 年度有機農業基礎データ作成事業報告書」（2011）http://www.moaagri.or.jp/pdf/H22_yukikiso_houkokusho.pdf

¹⁴ 滋賀県「環境こだわり農産物認証制度」（2016.07.07 アクセス）<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/kodawari/kodawari/ninshou.html>

¹⁵ スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、通行可能な車両（料金の支払い方法）を、ETC を搭載した車両に限定するインターチェンジのこと。「SA・PA 接続型」と「本線直結型」に分類。

¹⁶ 国土交通省（2016.07.07 アクセス）http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/smart_ic/

¹⁷ 六次産業化とは、「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」に基づき、地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等に関する施策及び地域の農林水産物の利用の促進に関する施策を総合的に推進することで、農林漁業等の振興等を図り、食料自給率の向上等への寄与を目的とすること。

2 有機野菜に関する意向調査

2-1 市民に向けた調査

■調査要領

(1) 調査目的：長浜市民の有機野菜に対する意向を明らかにし、今後の市の施策の基礎資料とすること

(2) 調査主体：長浜市有機農業推進協議会

(3) 調査対象：長浜市民

(4) 調査期間：平成 28 年 9 月 26 日配布、平成 28 年 10 月 31 日回収締切

(5) 調査方法：以下 3 通りを組み合わせた複合的な方法

1. 市内 85%以上で各戸配布される地域みっちゃく生活情報誌®「ぼてじゃこ倶楽部 10 月号（発行部数 44,120 部）」に啓発記事を掲載し、返信はがき・メール・FAX・二次元バーコードから公募

2. ダイレクトメール（DM）による郵送調査：1. の媒体未配布地域である余呉町・西浅井町・木之本町内の 3,365 世帯を対象に日本郵政の DM サービスにてアンケートを送付し、返信はがき・メール・FAX・二次元バーコードから回答を収集

3. 長浜市をカバーする生活情報ポータルサイト「フリモ®」会員に向けたインターネット調査：長浜市をカバーする生活情報ポータルサイト「フリモ®」会員 3,661 名（平成 28 年 10 月 21 日時点）にメールを送付し、添付のアドレスから応募フォームに誘導し回答を収集

尚、インセンティブとして、回答者の中から抽選を行い、20 名に野菜の詰め合わせをプレゼントした。

(6) 総回収数：644（全体集計の結果は参考資料参照）

■集計結果からの考察

まず、回答者属性は参考資料 p. 23 に示したとおりです。

性別は、「男性」が 41.9%、「女性」が 55.1%、「不明」が 0.2%、「無回答」が 2.8%です。平成 27 年国勢調査によると、男性 48.8%（57,703 人）、女性 51.2%（60,490 人）であるため、女性の回答率が相対的に高いです¹⁸。

年齢は、「10代」が 0.6%、「20代」が 4.7%、「30代」が 11.6%、「40代」が 12.0%、「50代」が 14.6%、「60代」が 30.9%、「70代」が 15.8%、「80代」が 5.0%、「90代」が 0.6%、「無回答」が 4.2%と 60代以上が半数を占めます。平成 27 年国勢調査によると、長浜市人口構成比は 60代以上が 32.9%であり、60代以上の回答率が相対的に高く、世帯を対象とした一般的な調査の回答傾向が認められます。

職業は、「主婦」が 22.4%、「無職」が 21.6%、「会社員」が 18.3%、「農業」が 8.7%、「パート・アルバイト」が 7.8%、「自営業」が 4.0%、「公務員」が 4.0%、「その他」が 6.7%、「無回答」が 6.5%であり、「主婦」と「無職」が 4割を占めます。「農業」も 8.7%と 1割弱であり、農業従事者は関心が高いようです。

¹⁸ 総務省統計局「平成 27 年国勢調査」（2017.01.23 アクセス）
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_&tstatCode=000001080615

家族構成は、「単身」が7.3%、「夫婦のみ」が27.0%、「二世帯（親子）」が45.5%、「三世帯」が14.0%、「その他」が3.1%、「無回答」が3.1%であり、「二世帯（親子）」が4割を占めます。平成27年国勢調査の結果と比較すると、「単身」世帯が相対的に少なく、「夫婦のみ」「二世帯」が相対的に高いです。

取得方法は、「DM」が51.6%、「ぼてじゃこ倶楽部」が34.3%、「モバイル」が14.1%であり、「DM」が半数を占めます。

居住地は、「西浅井町」が23.1%、「余呉町」が20.8%、「木之本町」が14.6%、「その他市内（小計）（以下「市街地」とする）」が36.0%、「市外」が2.6%、「無回答」が2.8%です。平成27年国勢調査の結果をみると、旧西浅井町が3.4%（4,000人）、旧余呉町が2.7%（3,142人）、旧木之本町が6.1%（7,155人）、上記3エリアを除く長浜市内が87.9%（103,896人）に対し、本調査では長浜市の北西に位置する全部特定農山村地域¹⁹である「西浅井町」「余呉町」「木之本町」の回答比率が約60%を占めており、構成比の偏りがみられます²⁰。本調査は、先述のとおり市街地では各戸配布される「ぼてじゃこ倶楽部」にて公募回収を行い、配布エリア外の木之本町・余呉町・西浅井町ではDMにて調査の依頼をした結果、DMによる回収率が高くなったことが影響しています。

以下では、別紙1に示したクロス集計からの動向を把握するため、総回収数644から無回答項目があるサンプルを除去した518サンプルを対象に考察を行います。

【野菜栽培：図6】

野菜栽培は、「栽培し家庭で消費している」が半数以上の52.1%です。年齢層が上がるほど、「栽培し家庭で消費している」の回答比率が上がり、60代以上の6割が「栽培し家庭で消費している」と回答しています。

居住地では、「西浅井町」・「余呉町」・「木之本町」は野菜栽培比率が高いです。このエリアは全部特定農山村地域であることから自給的農家が多いと考えられます。

家族構成別では、「夫婦のみ」、「三世帯」世帯は「栽培し家庭で消費している」が高いですが、同居している60代70代が野菜を作っていると推察されます（別紙2表①参照）。

【野菜の主な購入場所：図7】

野菜の購入は、全体では「地元スーパー（77.6%）」が高いですが、10代～30代は「親戚からもらう（10代・20代61.3%）（30代58.7%）」、60代以上は「自分で作る」が半数以上です。野菜栽培の状況から「親戚からもらう」というケースも多いと考えられます。

居住地では、「市街地」は「地元スーパー（88.3%）」「親戚などからもらう（48.8%）」「大手ショッピングモール（37.1%）」「生協・提携等の共同購入や宅配（20.2%）」が相

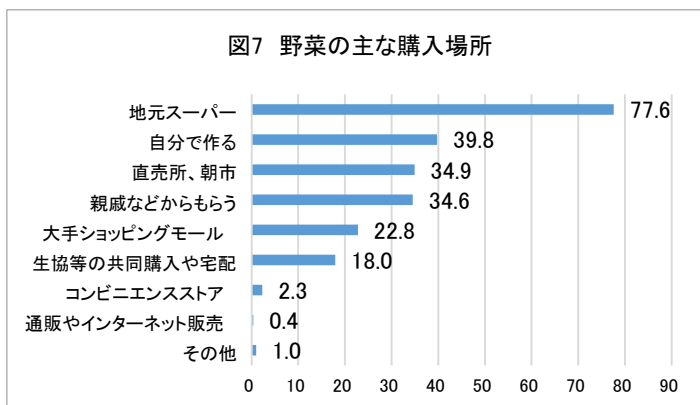
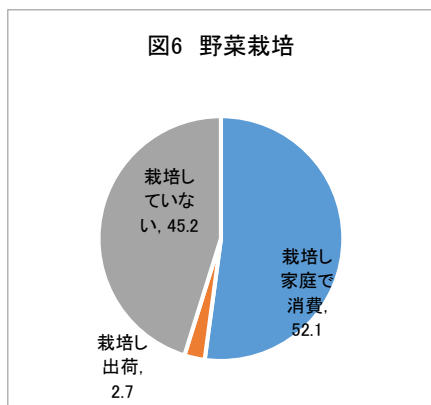
¹⁹ 特定農山村地域とは、「特定農山村地域における農林業の活性化のための基盤整備の促進に関する法律」（平成5年6月16日法律72号）に基づき地域指定された市町村および旧市町村の区域。全部特定農山村地域とは、指定地域の全域が特定農山村地域を指す。

「特定農山村地域における農林業の活性化のための基盤整備の促進に関する法律」（平成5年6月16日法律72号）（2017.01.23アクセス）<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H05/H05HO072.html>

²⁰ 滋賀県「地域振興立法指定地域一覧」（2017.01.23アクセス）
http://www.pref.shiga.lg.jp/g/noson/site_hurusato/files/happoutaikizu.pdf

対的に高いです。市街地は野菜を生産する比率が低いこともあり、購入比率が高い影響と推察されます（別紙2表②参照）。

野菜を「栽培していない」は「地元スーパー（86.8%）」での購入が圧倒的に多いですが、「親戚などからもらう（50.4%）」も高いです。また、「直売所・朝市」で購入は「地元産（53.5%）」や「生産者の情報（51.0%）」を重視しています。長浜市産の野菜を「積極的に購入したい」は「直売所・朝市（47.1%）」での購入が約半数を占めます（別紙2表③参照）。



【野菜購入のポイント：図8】

野菜を購入する際に重視するポイントは、「鮮度（71.6%）」「価格（64.9%）」「安全・安心（64.3%）」の順です。10代～30代は特に「価格（10・20代93.5%）（30代88.0%）」「安全・安心（10・20代71.0%）（30代72.0%）」、50代以上は「鮮度（50代83.8%）（60代67.9%）（70代59.4%）（80代以上52.0%）」を重視しています。「価格」を重視する背景には、家庭で野菜を栽培しておらず、購入頻度が高いことがあると推察され、70代以上は自身が野菜を栽培しているためか、「鮮度」「価格」を重視する比率は相対的に低いです。

居住地では、「市街地」は「鮮度（81.7%）」「価格（82.2%）」を重視する比率が8割以上と高く、「安全・安心（73.2%）」も7割以上です。「地元産（42.3%）」「豊富な種類を選べる（10.3%）」も相対的に高く、野菜を購入する際に「地元産」を重視しています。

家族構成別では、「二世帯（親子）」は子育て世代を含むこともあり、「鮮度（75.6%）」「価格（72.4%）」「安全・安心（70.1%）」を重視しています。野菜を「栽培していない」は「鮮度（75.6%）」と「価格（75.2%）」を重視しています（別紙2表④参照）。

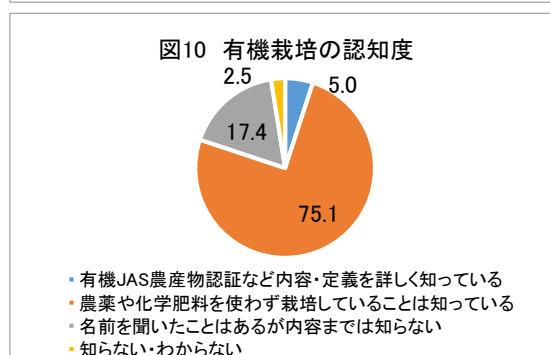
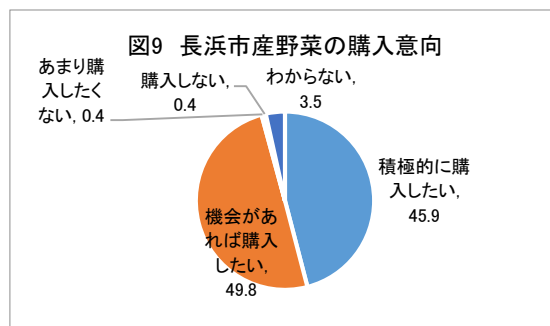
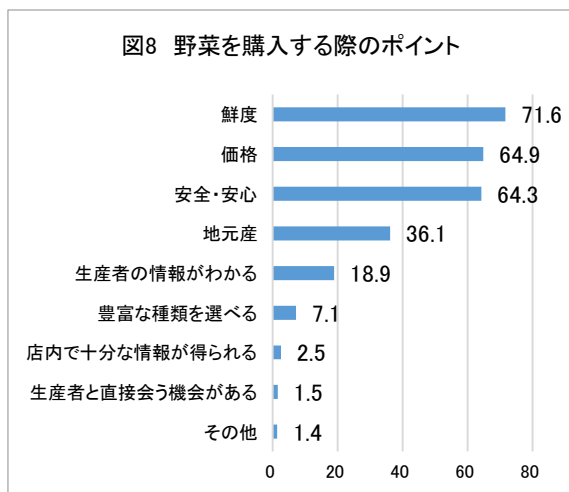
長浜市産の野菜を「積極的に購入したい」は「地元産（52.5%）」を半数以上が意識しています。有機野菜について「名前を聞いたことはあるがよく知らない」は、「価格（75.6%）」を重視する傾向が高いです（別紙2表⑤参照）。

【長浜市産野菜の購入意向：図9】

長浜市産の野菜について、「積極的に購入したい（45.9%）」「機会があれば購入したい（49.8%）」を合わせると、「購入したい」は95.7%に上ります。

居住地では、「市街地」は「積極的に購入したい（54.0%）」が相対的に高く、半数以上に上ります（別紙2表⑥参照）。

野菜購入時、「地元産」「生産者の情報がわかる」を重視するうちの6割以上が、「積極的に購入したい」と回答しています（別紙2表⑦参照）。

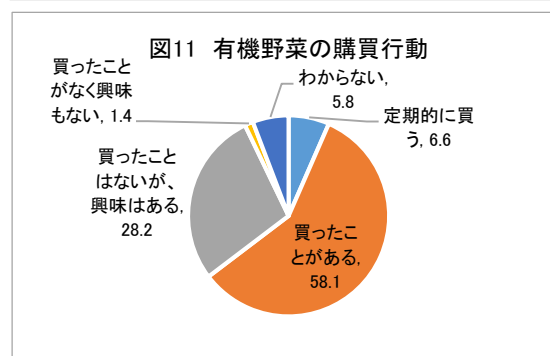


【有機栽培の認知度：図10】

有機栽培の認知度について、「内容・定義について詳しく知る」は5.0%でしたが、「農薬や化学肥料を使わず栽培していることを知る」は75.1%です。両者を合わせ「詳しく知る」は80.1%でした。「内容までは知らない」が17.4%、「知らない・わからない」が2.5%です。また、年齢が上がるにつれ、認知度が高くなります。

居住地では、「市街地」は「内容までは知らない(22.1%)」と回答する比率が相対的に高く、野菜栽培をしていない比率が高いことがありと推察されます（別紙2表⑧参照）。

野菜を「栽培している」は、有機栽培の認知度も高く、「栽培していない」は「内容までは知らない(24.4%)」が相対的に高いです（別紙2表⑨参照）。長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は有機野菜の認知度が相対的に高いです（別紙2表⑩参照）。長浜市の有機農業推進、長浜産の野菜の販売促進には、有機栽培に関するPRが重要であると考えられます。



【有機野菜の購買行動：図11】

普段の有機野菜の購入は、「定期的を買う」が6.6%、「買ったことがある」が58.1%と、「購入経験がある」が6割以上です。

居住地では、「市街地」は「定期的を買う(7.5%)」「買ったことがある(65.3%)」を合わせ、購入経験があると7割以上が回答しています（別紙2表⑪参照）。

野菜の購入時に「生産者の情報がわかる」を重視の15.3%が有機野菜を「定期的を買う」と回答しています。

長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は有機野菜を「定期的を買う（11.3%）」「買ったことがある（64.3%）」が相対的に高いです。「機会があれば購入したい」の中で、有機野菜を「定期的を買う」は2.7%にとどまりますが、「買ったことがある」が56.6%、「買ったことはないが興味がある」が33.7%です。

有機野菜について「詳しく知っている」は「定期的を買う」「買ったことがある」の回答比率が高く、「内容までは知らない」「知らない・わからない」は有機野菜の購買行動についても「わからない」の比率が高いです（別紙2表⑫参照）。

【有機野菜の購入場所：図12】

有機野菜の購入場所は、「直売所・朝市（63.0%）」が最も多く、次いで「地元スーパー（59.4%）」でした。

居住地では、「市街地」は「直売所・朝市（66.5%）」「地元スーパー（63.9%）」「大手ショッピングモール（21.9%）」で購入する比率が相対的に高いです（別紙2表⑬参照）。

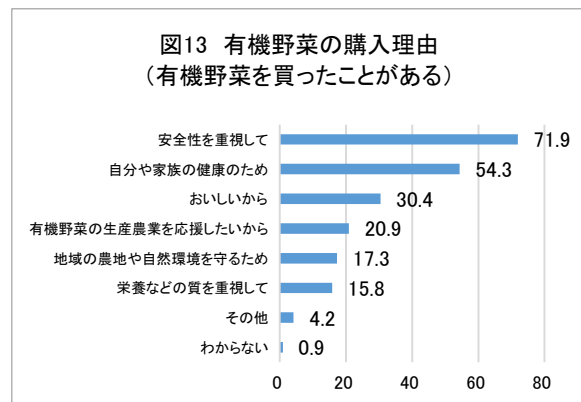
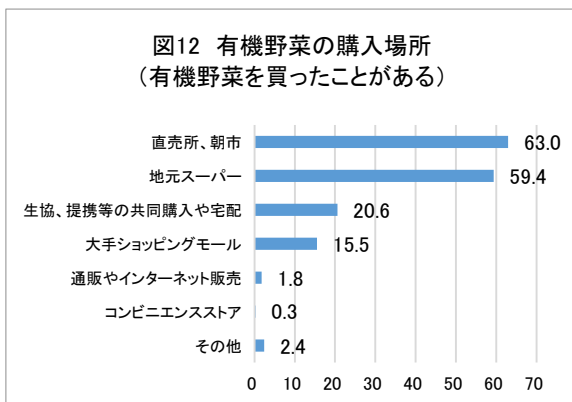
長浜市産の野菜を「積極的に購入したい」の6割以上、「機会があれば購入したい」の5割以上が「直売所・朝市」「地元スーパー」で購入しています。同じく有機野菜について「詳しく知っている」も「直売所・朝市」にて購入しており、生産者の顔が見えることが重要なようです（別紙2表⑭参照）。

【有機野菜の購入理由：図13】

有機野菜の購入理由は、「安全性を重視して（71.9%）」が最も多く、次いで「自分や家族の健康のため（54.3%）」です。

居住地では、「市街地」は「安全性を重視して（80.6%）」「自分や家族の健康のため（60.6%）」「おいしいから（35.5%）」が相対的に高く、特に「安全性を重視して」が8割以上に上ります（別紙2表⑮参照）。

長浜市産野菜を「積極的に購入したい」、有機栽培について「詳しく知っている」は、「安全性の重視」が7割以上、「自分や家族の健康のため」が5割以上です。また、「農業を応援したい」「農地や環境を守るため」も相対的に高いです。農業の活性化により、安全な農産物の安定供給、その先に自分や家族の健康があることが「農家を応援したい」という意向につながると推察されます（別紙2表⑯参照）。



【有機野菜の許容価格：図14】

一般の野菜と比較した有機野菜の価格は、「1.1～1.2倍」まで許容できるが41.1%です。

「一般の野菜と同程度」は25.3%、「1.3～1.4倍」は22.6%となっています。

居住地では、「市街地」は「一般野菜と同程度の価格」よりも高い価格を相対的に回答しています。野菜を栽培する比率が低く、購入する機会が多い市街地居住者は有機野菜が美味しいのであれば多少高い価格であることを許容しやすいと考えられます(別紙2表⑰参照)。

長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は、「1.3～1.4倍」が28.6%、「1.5～1.7倍」が9.2%と「機会があれば購入したい」より相対的に許容額が高いです。

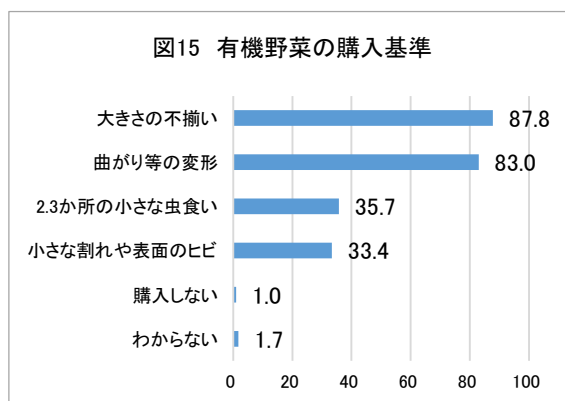
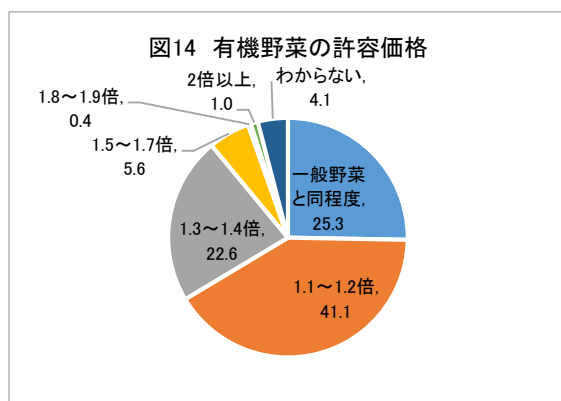
有機栽培について「内容・定義を詳しく知っている」は回答者数が少ないものの、「1.1～1.2倍」が34.6%、「1.3～1.4倍」が38.5%と、合わせて73.1%が高い価格設定を受け入れています(別紙2表⑱参照)。

【有機野菜の購入基準：図15】

有機野菜の購入基準は、「大きさの不揃い」が87.8%、「曲がりなどの変形」は83.0%が許容できると回答しています。「2、3か所の小さな虫食い」は35.7%、「小さな割れや表面のヒビ」は33.4%にとどまります。一般的には大きさの不揃いや変形は許容できるようです。

居住地では、「市街地」は、「大きさの不揃い(96.2%)」「曲がり等の変形(89.7%)」が約9割、「小さな割れや表面のヒビ(46.9%)」も約半数が許容できると回答しています(別紙2表⑲参照)。

長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は、「大きさの不揃い」が90.3%、「曲がりなどの変形」が86.1%、「虫食い」や「割れ・ヒビ」についても4割以上が許容できると回答しています(別紙2表⑳参照)。



【野菜栽培に求めるレベル：図 16】

野菜栽培に求めるレベルは、「環境こだわり農産物の認証を受けたもの」が 31.1%と最も高く、「化学肥料をまったく使わず、有機物施用のみを使用」が 18.3%、「農薬をまったく使わない」が 17.4%、「有機 JAS 農産物の認証を受けたもの」が 13.3%です。

中でも長浜市産の野菜を「積極的に購入したい」は、「有機 JAS 認証を受けたもの(17.6%)」が相対的に高く、「機会があれば購入したい」は「栽培方法は特に問わない (14.3%)」が相対的に高いです。

有機栽培について「内容・定義を詳しく知っている」「農薬や化学肥料を使わず栽培していることは知っている」は基準に対する認知度が高いためか「環境こだわり農産物の認証を受けたもの」が 3 割以上と相対的に高い一方、「内容までは知らない」「知らない・わからない」は「栽培方法は特に問わない」が 2 割以上、「わからない」が 15%以上と相対的に高いです（別紙 2 表⑭参照）。

【有機農業推進において期待すること：図 17】

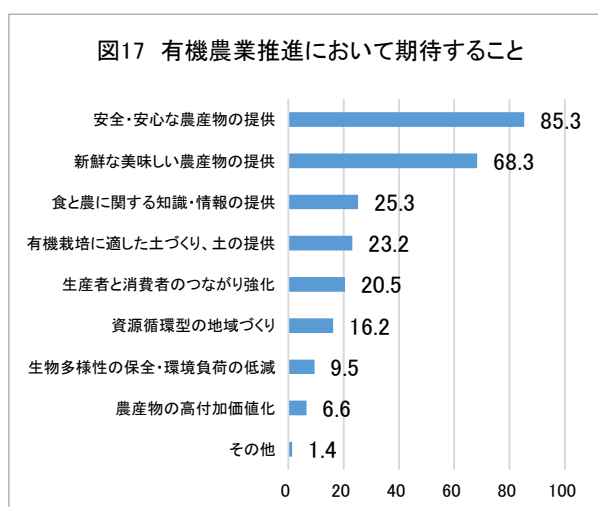
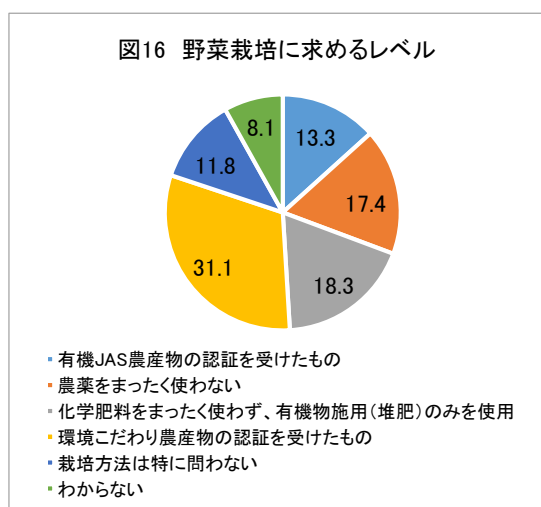
有機農業推進において期待することは、「安全・安心な農産物の提供 (85.3%)」と最も多く、次いで「新鮮な美味しい農産物の提供 (68.3%)」です。

居住地では、「市街地」は「安全・安心な農産物の提供 (93.9%)」「新鮮な美味しい農産物の提供 (77.0%)」「食と農に関する知識・情報の提供 (31.5%)」「生産者と消費者のつながり強化 (26.3%)」への期待が相対的に高いです。農産物に加え、知識や繋がりを求める意向が確認できました（別紙 2 表⑮参照）。

野菜購入時に「生産者の情報がわかる」を重視は、「生産者と消費者のつながり強化 (42.9%)」や地産地消につながる「資源循環型の地域づくり (28.6%)」に期待しています。

長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は「安全・安心な農産物の提供 (90.3%)」への期待が 9 割を超え、同時に「機会があれば購入」より「生産者と消費者のつながり強化 (27.3%)」が相対的に高くなりました。

生産者の顔が見えることは安全性・安心感を高めると解釈できます。また、有機栽培に関する知識は、有機農業推進への期待につながるようです（別紙 2 表⑯参照）。



【飲食店における有機野菜を使用したメニューの注文意向：図 18】

飲食店における有機野菜を使ったメニューの注文は、「積極的に注文する」が 19.9%「どちらかといえば注文する」が 61.0%と肯定的な意見が 8 割を超えます。

中でも、長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は、「積極的に注文する (31.1%)」が高いです。有機栽培についても「詳しく知っている」が、「積極的に注文する」「どちらかといえば注文する」と回答しており、両者を合わせると 8 割に上ります。有機栽培について「内容までは知らない」は、有機野菜を使用したメニューの注文についても「わからない」が 35.6%に上り、今後の有機栽培の認知度向上が求められます (別紙 2 表⑭参照)。

【飲食店における有機野菜使用メニューの許容価格：図 19】

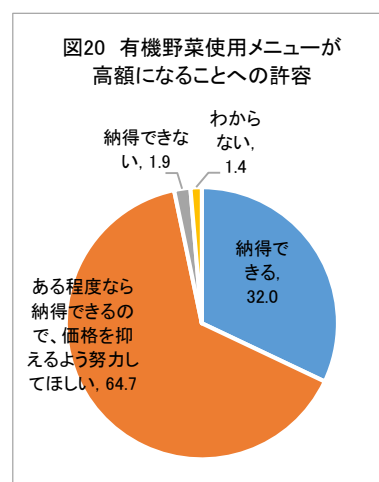
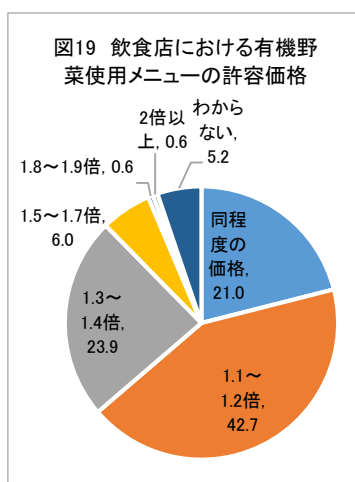
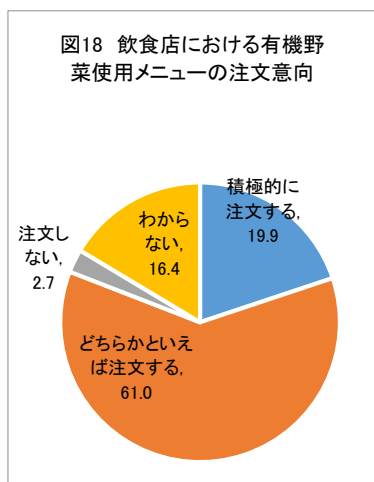
有機野菜を使用したメニューの価格は、「通常と同程度の価格」が 21.0%、「1.1~1.2 倍」が 42.7%、「1.3~1.4 倍」が 23.9%であり、7 割以上が通常よりも高い価格を許容できると回答しています。

長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は、通常より高い価格でも注文するとの回答が多く、「1.3~1.4 倍」が 28.6%、「1.5~1.6 倍」が 10.9%です。有機栽培と「詳しく知っている」についても同様の傾向がみられ、1.1~1.7 倍を合わせると約 7 割に上ります。「内容までは知らない」「知らない・わからない」は「同程度の価格」が約 3 割と「詳しく知っている」に比べ高いです (別紙 2 表⑮参照)。

【有機野菜使用メニューが高額になることへの許容：図 20】

有機野菜を使用することでメニューが相対的に高い価格になることについて、「納得できる (32.0%)」、「ある程度なら納得できる (64.7%)」が合わせて 96.7%です。

野菜購入時に「地元産」を重視は、「納得できる (41.2%)」が 4 割に上ります。長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は「納得できる (42.0%)」と「ある程度なら納得できる」を含めると、「納得できる」が 99.1%です。有機栽培の認知度との関連についても、「詳しく知っている」ことが「納得できる」につながっています (別紙 2 表⑯参照)。



2-2 飲食店に向けた調査

市内飲食店を対象に長浜市産野菜・有機野菜の使用に関する意向調査を行いました。調査にあたり、過去に他社・他団体が実施した調査より一般的な動向を把握します。

野菜の仕入について、宮城県農業・園芸総合研究所「外食産業における県内産野菜の利用実態と評価」によると、野菜の仕入先は「法人その他」は業務用卸が多いですが、「個人」の場合は一般スーパーや生産者が多いです²¹。

生鮮野菜を仕入れる際に重視するポイントは、ぐるなび「生鮮野菜に関する調査」によると、「価格の安さ・手頃さ」「鮮度の高さ」「美味しさ」の順です。「ダイニング・ビアレストラン・パブ」ジャンルの店舗では産地や外観を重視し、「洋食」では有機野菜や無農薬野菜を重視しています²²。同社の「平成 25 年度生産環境総合対策事業報告書」では、有機農産物の取り扱いが「ある」事業者が 33.3%、「以前はあったが今は無い」が 25.9%、「過去に一度も無い」が 40.7%です。過去に取り扱いのある農産物は「ニンジン」「じゃがいも」「かぼちゃ」「玉ねぎ」が半数以上であり、取り扱いたい理由は「美味しいから (66.7%)」「ブランド力がある (63.0%)」です。有機農産物を取り扱う際に重視するポイントは、やはり「味 (88.9%)」と「価格 (81.5%)」が非常に高く、次いで「生産者の理念や人柄 (55.6%)」となっています²³。

先行調査からは、個人経営の店舗が法人より生産者から直接仕入れやすい、また洋食メインのお店は比較的無農薬や有機の食材にこだわっており、有機農産物を取り扱う際のポイントは、「味」・「価格」に加え、「生産者の理念や人柄」が重視されるようです。

今回、市内飲食店を対象に実施した調査の要領と結果は以下のとおりです。

■調査要領

- (1) 調査目的：長浜市内飲食店の有機野菜に対する意向を明らかにし、市の施策の基礎資料とすること
- (2) 調査主体：長浜市有機農業推進協議会
- (3) 調査対象：長浜市内にある飲食店
- (4) 調査期間：平成 28 年 9 月 26 日から平成 28 年 10 月 31 日までの期間
- (5) 調査方法：調査票を元にした聞き取り調査
- (6) 総回収数：32 店舗

■集計結果からの考察：表 1 参照

野菜の仕入れ先は、約 8 割が自店にて決定しており、個人・法人問わず、多くが店舗に決定権があるようです。

一般的なレシピと比較した野菜の使用量について、「多く使用 (18.8%)」「やや多く使用 (40.6%)」を合わせた通常より「多く使用」は 59.4%と約 6 割に上ります。一方、「特に意識していない」も 34.4%です。

²¹ 宮城県農業・園芸総合研究所「外食産業における県内産野菜の利用実態と評価」(2005)

<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69682.pdf>

²² ぐるなび「生鮮野菜に関する調査」(2013) <https://pro.gnavi.co.jp/bp/news/>

²³ ぐるなび「平成 25 年度生産環境総合対策事業報告書」(2014)

http://pr.gnavi.co.jp/promo/organic2013/data/h25_kankyo.pdf

長浜市産野菜の使用意向は、「積極的に使用 (31.3%)」と「機会があれば使用 (50.0%)」を合わせると、使用したいが8割以上です。「機会があれば使用」と回答した半数への具体的なアプローチや「特に考えていない」へのPRが今後の課題といえます。

メニューへの有機野菜の使用は、「使用経験がある (78.2%)」が約8割です。中でも「定期的に使用 (18.8%)」に対して長浜市産有機野菜の積極的な使用が期待できます。

一般の野菜と比較した有機野菜の許容価格は、「1.1~1.2倍」が40.6%と最も多く、通常価格から2割増までは許容できそうです。有機野菜の購入基準は、「大きさの不揃い」は81.3%、「曲がりなどの変形」は68.8%が許容できる一方、割れやヒビ、虫食いの許容は3割以下にとどまりました。

有機野菜を仕入れる際に重視するポイントは、「価格 (76.0%)」が最も重要、次いで「味 (72.0%)」です。

表1：飲食店を対象としたアンケート集計結果 ※回収数が少ないため注意を要する。

1. 野菜の仕入先の決定は？(単一選択)

	N	%
自店で決定	25	78.1
本社で決定	6	18.8
その他	1	3.1
合計	32	100.0

2. 料理を調理・提供する際、一般的なレシピと比較した野菜の使用量を教えてください(単一選択)

	N	%
多く使用	6	18.8
やや多く使用	13	40.6
やや少なく使用	0	0.0
少なく使用	2	6.3
特に意識していない	11	34.4
合計	32	100.0

3. 長浜市産の野菜に対する今後の意向について教えてください(単一選択)

	N	%
積極的に使用	10	31.3
機会があれば使用	16	50.0
特に考えていない	5	15.6
無回答	1	3.1
合計	32	100.0

4. メニューに有機野菜を使用したことがありますか？(単一選択)

	N	%
定期的に使用している	6	18.8
たまに使用している	6	18.8
使用したことがある	13	40.6
使用したことはないが興味はある	1	3.1
使用したことがなく興味もない	3	9.4
わからない	3	9.4
合計	32	100.0

5. 一般の野菜と比較して、美味しければ購入してもよいという有機野菜の価格を教えてください(単一選択)

	N	%
一般野菜と同程度の価格	10	31.3
1.1~1.2倍	13	40.6
1.3~1.4倍	3	9.4
1.5~1.7倍	3	9.4
1.8~1.9倍	0	0.0
2倍以上	0	0.0
わからない	3	9.4
合計	32	100.0

6. 有機野菜で美味しければ購入してもよいというものを教えてください(複数選択可)

	N	%
曲がりなどの変形	22	68.8
大きさの不揃い	26	81.3
小さな割れや表面のヒビ	9	28.1
2、3か所の小さな虫食い	5	15.6
購入しない	1	3.1
わからない	4	12.5
合計	67	209.4
回答者数	32	100.0

7. (問4で「使用したことがある」と回答した方)有機野菜を仕入れる際に重視するポイントを教えてください(複数選択可)

	N	%
味	18	72.0
価格	19	76.0
生産者の理念や人柄	7	28.0
産地	5	20.0
供給体制、事業規模	4	16.0
発注や支払など事務手続の方法	2	8.0
生産方法	4	16.0
ブランド、知名度	4	16.0
自社、自店からの距離	2	8.0
その他	2	8.0
わからない	0	0.0
合計	67	268.0
回答者数	25	100.0

8. (問4で「使用したことがない・わからない」と回答した方)どういふきっかけがあれば、今後有機野菜を積極的にメニューに使用できますか？(複数選択可)

	N	%
価格が比較的安く入手できる	4	57.1
安定して仕入れができる	2	28.6
地元で仕入れができる	1	14.3
仕入れができる有機野菜の種類が増える	0	0.0
有機野菜を売るお店が増える	0	0.0
有機野菜の認知度が上がる	0	0.0
有機野菜に関する知識が浸透する	0	0.0
イベントなど直接購入する機会が増える	0	0.0
その他	2	28.6
使用しない	0	0.0
わからない	0	0.0
無回答	1	14.3
合計	10	142.9
回答者数	7	100.0

今まで有機野菜の使用経験が無い店舗が今後の有機野菜使用のきっかけとすることは、「価格が比較的安く入手できる (57.1%)」が最も多く、次いで「安定供給」「地元での仕入れ」となっています。

有機野菜の使用経験がある店舗が多く、今後長浜市産有機野菜の積極的な受け入れが期待できます。ただし、一般市民と比較し、使用の際の価格に対する姿勢は厳しいようで、有機野菜の使用経験がある店舗においても、重視するポイントは価格、味の順になっています。大きさの不揃いや曲がりなど外見上で規格外とされる野菜を低価格で提供することも含め販路拡大の工夫が求められます。

3. まとめ

本報告書では、長浜市民と長浜市内の飲食店を対象とした「有機野菜に関する意向調査」の結果に基づき長浜市における有機農業の可能性に関する考察を行いました。市民対象の調査においては、地域ごとの調査方法が異なることから、全部特定農山村地域である「西浅井町」「余呉町」「木之本町」の回答比率が約60%を占め、構成比の偏りがみられました。

市民対象調査の結果は、家庭で野菜を「栽培している」が54.8%と半数以上でした。「西浅井町 (73.4%)」「余呉町 (71.2%)」「木之本町 (73.4%)」は7割以上が栽培しており、「市街地 (33.8%)」と比較し、相対的に高いです。市内においても市街地と全部特定農山村地域の3町とでは差があることが明らかになりました。

主な野菜の購入場所は、「地元スーパー (77.6%)」や「自分で作る (39.8%)」でした。「市街地」居住者は、「地元スーパー (88.3%)」が約9割と最も高いですが、「親戚からもらう (48.8%)」も約5割に上り、「大手ショッピングモール (37.1%)」「生協・提携等の共同購入や宅配 (20.2%)」も相対的に高いです。自身が栽培していなくても、親や親戚が野菜づくりを行っていることもあり、農業に対する理解が得やすい環境にあるといえます。

野菜購入のポイントは、「鮮度 (71.6%)」「価格 (64.9%)」「安全・安心 (64.3%)」であり、地域間の特徴として、「市街地」居住者は、「西浅井町」「余呉町」「木之本町」居住者より重視する傾向が強く、「地元産」であることも重視しています。

長浜市産の野菜は、「購入したい」が95.7%であり、地元野菜の購入意向は高いようです。また、「市街地」居住者は、「西浅井町」「余呉町」「木之本町」居住者より「積極的に購入したい」と回答しており半数以上に上ります。

有機栽培について、「詳しく知っている」は80.1%に上り、「野菜を栽培している」は相対的に認知度も高いようです。そのため、野菜栽培比率が高い「西浅井町」「余呉町」「木之本町」の認知度が相対的に高いです。また、有機栽培に関する認知度と長浜市産野菜の購入意向に関連性がみられました。「市街地」居住者は、有機栽培の認知度は相対的に低いものの、長浜市産野菜の購入意向は相対的に高く、市街地での有機栽培の啓発活動が、今後の有機農業推進の鍵となりそうです。

有機野菜の購入経験が「ある (64.7%)」は6割以上です。「市街地」居住者は7割以上に購入経験があります。

有機野菜の購入場所は、「直売所・朝市 (63.0%)」、次いで「地元スーパー (59.4%)」が高いです。「市街地」居住者は、「直売所・朝市 (66.5%)」「地元スーパー (63.9%)」が相

対的に高いとともに、「大手ショッピングモール (21.9%)」も2割に上ります。地元での購入場所が増えることにより、認知度向上、販売促進につながることを期待できます。

購入理由は、「安全性を重視して (71.9%)」が最も高く、食の安全への意識が高いことが伺えます。特に「市街地」居住者は「安全性を重視して (80.6%)」が8割に上り、「自分や家族の健康のため (60.6%)」「おいしいから (35.5%)」も相対的に高い結果となりました。

有機野菜の許容価格は、「一般野菜の1.1~1.2倍」が41.1%と最も高いです。「市街地」居住者は相対的に高い価格を回答しています。野菜の購入機会が多い市街地居住者は、有機野菜が美味しいのであれば多少高い価格であることを許容しやすいことが考えられます。

有機野菜の購入基準は、「大きさの不揃い (87.8%)」や「曲がり等の変形 (83.0%)」に対する許容が8割以上です。「市街地」居住者は「大きさの不揃い (96.2%)」「曲がり等の変形 (89.7%)」は約9割、「小さな割れや表面のヒビ (46.9%)」も約半数が許容できると回答しています。有機野菜というブランドを保持したまま、外見上で規格外とされる野菜をリーズナブルな価格で提供していく販路を構築することが重要です。

野菜の栽培方法に求めるレベルは、「環境こだわり農産物認証 (31.1%)」が最も高く、次いで「化学肥料をまったく使わず、有機物施用のみを使用 (18.3%)」でした。長浜市産野菜を「積極的に購入したい」は「有機JAS認証 (17.6%)」であり、野菜栽培に求めるレベルが高いようです。

有機農業に期待することは、「安全・安心な農産物の提供 (85.3%)」「新鮮な美味しい農産物の提供 (68.3%)」です。「市街地」居住者は「安全・安心な農産物の提供 (93.9%)」「新鮮な美味しい農産物の提供 (77.0%)」「食と農に関する知識・情報の提供 (31.5%)」「生産者と消費者のつながり強化 (26.3%)」が相対的に高いです。農産物に加え、知識や繋がりを求める意向が確認できました。野菜購入時「生産者の情報がわかる」を重視は「生産者と消費者のつながり強化 (42.9%)」「資源循環型の地域づくり (28.6%)」も同時に求めているようです。

飲食店での有機野菜使用メニューの注文意向は、「注文する」80.9%であり、有機野菜使用メニューの許容価格は「1.1~1.2倍 (42.7%)」と有機野菜とほぼ同様の傾向がみられました。長浜市産野菜を「積極的に購入したい」、有機栽培を「詳しく知っている」は通常のメニューよりも高い価格を許容しており、有機野菜を使用したメニューが相対的に高額になることについて96.7%が「納得できる」としています。

一方、飲食店を対象とした調査では、野菜の仕入れ先を「自店で決定」が78.1%、現在の野菜の使用量は「多く使用」が59.4%でした。長浜市産野菜を「使用したい」は81.3%、有機野菜の使用について「使用経験がある」は78.2%です。

有機野菜の許容価格は、「1.1~1.2倍 (40.6%)」と市民の調査結果と類似した傾向が見られます。ただし、有機野菜の購入基準は、「大きさの不揃い (81.3%)」「曲がり等の変形 (68.8%)」と市民の感覚より許容できる範囲は厳しく、メニューを提供する上で見た目も重視する影響と推察されます。有機野菜購入時に重視するポイントは「価格 (76.0%)」「味 (72.0%)」であり、今後の購入するきっかけも「価格が比較的安く入手できる (57.1%)」となっています。

以上のことから、市内での農作物を安定的に生産することが輸送コストや鮮度の面から有利となると同時に、有機農産物を取り扱う際に半数以上が重視する「生産者の理念や人

柄」の点からも「生産者の顔が見え、話ができる」関係が築きやすく、「地産地消」のシステムを構築していくことが重要となるでしょう。

さらに、有機農業に関する情報を発信し、認知度の向上を図ることが長浜市産野菜の購買や長浜市の農業の活性化につながると期待されます。

【調査の監修】

本調査の質問項目の作成、結果の集計・分析には、岐阜大学地域科学部三井栄教授に監修いただきました。

岐阜大学地域科学部三井栄教授 プロフィール

専門：計量経済学：景気分析、経済効果の計測、数理ファイナンス

『中部を創る～20人の英知が未来をデザイン～』中日新聞社(2010)

「東海北陸自動車道全通による地域経済への影響—企業の意識構造分析」地域学研究(2011)

「岐阜県観光産業におけるリニア中央新幹線東京名古屋間開業への期待—観光・宿泊施設の意識構造分析—」日本都市学会年報(2014)

【参考文献】

- 長浜市「長浜市農業活性化プラン」(2016. 07. 07 アクセス)
<https://www.city.nagahama.shiga.jp/index.cfm/6,32138,77,574,html>
- 総務省統計局「平成 26 年経済センサス」(2014)
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001068220&cycode=0>
- 総務省統計局「平成 12 年国勢調査第 2 次基本集計」(2017. 12. 07 アクセス)
<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2000/>
- 総務省統計局「平成 22 年国勢調査産業等基本集計」(2017. 12. 07 アクセス)
<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/>
- 農林水産省「農業生産に関する統計 (1)」(2016. 12. 08 アクセス)
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/sihyo/data/05.html>
- 農林水産省「市町村の姿 グラフと統計でみる農林水産業」(2016. 12. 02 アクセス)
<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/25/203/index.html>
- 稲熊利和「米の生産調整見直しをめぐる課題 — 過剰作付・米価下落への備え —」『立法と調査』(2014)
- 長浜市「平成 27 年度農業経営に関する意向調査」(2015)
- 農林水産省「有機農業の推進に関する法律 (平成 18 年法律第 112 号)」(2016. 07. 07 アクセス) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/pdf/d-1.pdf>
- 農林水産省「有機食品の検査認証制度」(2016. 07. 07 アクセス)
http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/youki.html#seido
- 農林水産省「有機 JAS 制度について」(2016. 07. 07 アクセス)
http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/pdf/yuki_jas_seido_150904.pdf
- 日本有機農業研究会「有機農業に対する消費者の理解と関心に関するアンケート調査」
『平成 23 年度 有機農業調査事業実需者 (消費者) 報告書』(2011)
<http://www.joaa.net/research/syohisya-h24-1.pdf>
- 滋賀県「環境こだわり農産物認証制度」(2016. 07. 07 アクセス)
<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/kodawari/kodawari/ninshou.html>
- 国土交通省「スマートインターチェンジの整備」(2016. 07. 07 アクセス)
http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/smart_ic/
- 宮城県農業・園芸総合研究所「外食産業における県内産野菜の利用実態と評価」(2005)
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69682.pdf>
- ぐるなび「生鮮野菜に関する調査」(2013) <https://pro.gnavi.co.jp/bp/news/>
- ぐるなび「平成 25 年度生産環境総合対策事業報告書」(2014)
http://pr.gnavi.co.jp/promo/organic2013/data/h25_kankyo.pdf
- 滋賀県「地域振興立法指定地域一覧」(2017. 01. 23 アクセス)
http://www.pref.shiga.lg.jp/g/noson/site_hurusato/files/happoutiikizu.pdf
- 「特定農山村地域における農林業の活性化のための基盤整備の促進に関する法律」
(平成 5 年 6 月 16 日法律 72 号) (2017. 01. 23 アクセス)
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H05/H05HO072.html>
- 総務省統計局「平成 27 年国勢調査」(2017. 01. 23 アクセス)
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_&tstatCode=000001080615

【参考資料】 有機野菜に関する意識調査 市民用調査票

	質問内容		回答選択項目
属性1	氏名	必須回答記述式	
属性2	住所	必須回答記述式	
属性3	電話番号	必須回答記述式	
属性4	職業	必須回答記述式	
属性5	家族構成	必須回答単一選択	単身 夫婦のみ 二世帯(親子) 三世帯 その他
問No	質問内容		回答選択項目
問1	野菜栽培について	必須回答単一選択	栽培し家庭で消費している 栽培し出荷している 栽培していない
問2	普段の野菜の主な購入場所は？	必須回答複数選択	大手ショッピングモール 地元スーパー 直売所、朝市 コンビニエンスストア 自分で作る 親戚などからもらう 生協、提携等の共同購入や宅配 通販やインターネット販売 その他
問3	野菜を購入する際のポイントは？	必須回答複数選択	価格 安全・安心 地元産 鮮度 豊富な種類を選べる 生産者の情報がわかる(産地や生産者名) 生産者と直接会う機会がある 店内で十分な情報が得られる その他
問4	長浜市産の野菜について、積極的に購入したいですか？	必須回答単一選択	積極的に購入したい 機会があれば購入したい あまり購入したくない 購入しない わからない
問5	有機栽培の認知度について教えてください	必須回答単一選択	有機JAS農産物認証など内容・定義を詳しく知っている 農業や化学肥料を使わず栽培していることは知っている 名前を聞いたことはあるが内容までは知らない 知らない・わからない
問6	普段、有機野菜を買いますか？	必須回答単一選択	定期的に買う 買ったことがある 買ったことはないが、興味はある 買ったことがなく興味もない わからない
問7	買ったことがある方は、購入場所を教えてください	任意回答複数選択	大手ショッピングモール 地元スーパー 直売所、朝市 コンビニエンスストア 生協、提携等の共同購入や宅配 通販やインターネット販売 その他

	質問内容		回答選択項目
問8	買ったことのある方は、購入理由を教えてください	任意回答複数選択	おいしいから 自分や家族の健康のため 安全性を重視して 栄養などの質を重視して 地域の農地や自然環境を守るため 有機野菜の生産農業を応援したいから その他 わからない
問9	一般の野菜と比較して、美味しければ購入してもよいという有機野菜の価格を教えてください	必須回答単一選択	一般野菜と同程度の価格 1.1～1.2倍 1.3～1.4倍 1.5～1.7倍 1.8～1.9倍 2倍以上 わからない
問10	有機野菜で美味しければ購入してもよいというものを教えてください	必須回答複数選択	曲がり等の変形 2.3か所の小さな虫食い 大きさの不揃い 小さな割れや表面のヒビ 購入しない わからない
問11	野菜の栽培方法に求めるレベルを教えてください	必須回答単一選択	有機JAS農産物の認証を受けたもの 農薬をまったく使わない 化学肥料をまったく使わず、有機物施用(堆肥)のみを使用 環境こだわり農産物(農薬や化学肥料5割低減)の認証を受けたもの 栽培方法は特に問わない わからない
問12	有機農業の推進において期待することを教えてください	必須回答複数選択	安全・安心な農産物の提供 新鮮な美味しい農産物の提供 バイオマス資源(食品廃棄物等)を使うことによる資源循環型の地域づくり 生産者と消費者のつながり強化 有機栽培に適した土づくり、土の提供 食と農に関する知識・情報の提供 農産物の高付加価値化 生物多様性の保全・環境負荷の低減 その他
問13	飲食店で、有機野菜を使ったメニューがあれば注文しますか？	必須回答単一選択	積極的に注文する どちらかといえば注文する 注文しない わからない
問14	飲食店で、有機野菜を使っていないメニューとの価格差が何倍までなら注文しますか？	必須回答単一選択	同程度の価格 1.1～1.2倍 1.3～1.4倍 1.5～1.7倍 1.8～1.9倍 2倍以上 わからない
問15	有機野菜を使ったメニューは相対的に高い価格になることは納得できますか？	必須回答単一選択	納得できる ある程度なら納得できるので、価格を抑えるよう努力してほしい 納得できない わからない

【市民用 回答者属性】

性別

	N	%
男性	270	41.9%
女性	355	55.1%
不明	1	0.2%
無回答	18	2.8%
合計	644	100.0%

年代

	N	%
10代	4	0.6%
20代	30	4.7%
30代	75	11.6%
40代	77	12.0%
50代	94	14.6%
60代	199	30.9%
70代	102	15.8%
80代	32	5.0%
90代	4	0.6%
無回答	27	4.2%
合計	644	100.0%

職業

	N	%
主婦	144	22.4%
無職	139	21.6%
会社員	118	18.3%
農業	56	8.7%
パート・アルバイト	50	7.8%
自営業	26	4.0%
公務員	26	4.0%
その他	43	6.7%
無回答	42	6.5%
合計	644	100.0%

家族構成

	N	%
単身	47	7.3%
夫婦のみ	174	27.0%
二世帯(親子)	293	45.5%
三世帯	90	14.0%
その他	20	3.1%
無回答	20	3.1%
合計	644	100.0%

取得方法

	N	%
DM	332	51.6%
ぼてじゃこ倶楽部	221	34.3%
モバイル	91	14.1%
合計	644	100.0%

お住まい

町名	N	%	町名	N	%
湖北町	18	2.8%	下八木町	1	0.2%
高月町	14	2.2%	加田今町	1	0.2%
神照町	11	1.7%	加田町	1	0.2%
平方町	11	1.7%	弓削町	1	0.2%
宮司町	9	1.4%	元浜町	1	0.2%
祇園町	8	1.2%	高田町	1	0.2%
勝町	7	1.1%	今川町	1	0.2%
南高田町	7	1.1%	三ツ矢元町	1	0.2%
公園町	6	0.9%	山階町	1	0.2%
常喜町	5	0.8%	室町	1	0.2%
八幡中山町	5	0.8%	小谷丁野町	1	0.2%
宮前町	4	0.6%	鐘紡町	1	0.2%
口分田町	4	0.6%	兼兼町	1	0.2%
相撲町	4	0.6%	新旭町	1	0.2%
大路町	4	0.6%	新栄町	1	0.2%
朝日町	4	0.6%	須賀谷町	1	0.2%
内保町	4	0.6%	西上坂町	1	0.2%
南呉服町	4	0.6%	川崎町	1	0.2%
八幡東町	4	0.6%	泉町	1	0.2%
三ツ矢町	3	0.5%	草野町	1	0.2%
三田町	3	0.5%	尊勝寺町	1	0.2%
四ツ塚町	3	0.5%	太田町	1	0.2%
十里町	3	0.5%	大依町	1	0.2%
新庄寺町	3	0.5%	大寺町	1	0.2%
新庄中町	3	0.5%	大辰巳町	1	0.2%
川道町	3	0.5%	大浜町	1	0.2%
南小足町	3	0.5%	中野町	1	0.2%
八島町	3	0.5%	長田町	1	0.2%
末広町	3	0.5%	殿町	1	0.2%
下坂浜町	2	0.3%	東上坂町	1	0.2%
加納町	2	0.3%	難波町	1	0.2%
港町	2	0.3%	八木浜町	1	0.2%
小堀町	2	0.3%	富田町	1	0.2%
神前町	2	0.3%	保多町	1	0.2%
曾根町	2	0.3%	北ノ郷町	1	0.2%
相撲庭町	2	0.3%	本庄町	1	0.2%
大井町	2	0.3%	野村町	1	0.2%
大宮町	2	0.3%	列見町	1	0.2%
大戌亥町	2	0.3%	小計(その他市内)	232	36.0%
地福寺町	2	0.3%	西浅井町	149	23.1%
鳥羽上町	2	0.3%	余呉町	134	20.8%
南田附町	2	0.3%	木之本町	94	14.6%
平方南町	2	0.3%	市外	17	2.6%
榎木町	1	0.2%	無回答	18	2.8%
下坂中町	1	0.2%	合計	644	100.0%
下之郷町	1	0.2%			

【市民用 全体集計結果】

問1 野菜栽培について

	N	%
栽培し家庭で消費している	348	54.0%
栽培し出荷している	18	2.8%
栽培していない	272	42.2%
無回答	6	0.9%
合計	644	100.0%

問2 普段の野菜の主な購入場所は？

	N	%
地元スーパー	476	73.9%
自分で作る	268	41.6%
直売所、朝市	221	34.3%
親戚などからもらう	200	31.1%
大手ショッピングモール	135	21.0%
生協、提携等の共同購入や宅配	115	17.9%
コンビニエンスストア	12	1.9%
通販やインターネット販売	4	0.6%
その他	8	1.2%
無回答	4	0.6%
合計	1443	224.1%
回答者数	644	100.0%

問3 野菜を購入する際のポイントは？

	N	%
鮮度	445	69.1%
価格	408	63.4%
安全・安心	402	62.4%
地元産	228	35.4%
生産者の情報がわかる(産地や生産者名)	119	18.5%
豊富な種類を選べる	46	7.1%
店内で十分な情報が得られる	16	2.5%
生産者と直接会う機会がある	10	1.6%
その他	11	1.7%
無回答	6	0.9%
合計	1691	262.6%
回答者数	644	100.0%

問4 長浜市産の野菜について、積極的に購入したいですか？

	N	%
積極的に購入したい	285	44.3%
機会があれば購入したい	321	49.8%
あまり購入したくない	4	0.6%
購入しない	5	0.8%
わからない	23	3.6%
無回答	6	0.9%
合計	644	100.0%

問5 有機栽培の認知度について教えてください

	N	%
有機JAS農産物認証など内容・定義を詳しく知っている	33	5.1%
農薬や化学肥料を使わず栽培していることは知っている	475	73.8%
名前を聞いたことはあるが内容までは知らない	118	18.3%
知らない・わからない	14	2.2%
無回答	4	0.6%
合計	644	100.0%

問6 普段、有機野菜を買いますか？

	N	%
定期的に買う	41	6.4%
買ったことがある	365	56.7%
買ったことはないが、興味はある	172	26.7%
買ったことがなく興味もない	16	2.5%
わからない	44	6.8%
無回答	6	0.9%
合計	644	100.0%

問7 買ったことがある方は、購入場所を教えてください

	N	%
直売所、朝市	255	62.8%
地元スーパー	229	56.4%
生協、提携等の共同購入や宅配	89	21.9%
大手ショッピングモール	58	14.3%
通販やインターネット販売	7	1.7%
コンビニエンスストア	1	0.2%
その他	9	2.2%
無回答	0	0.0%
合計	648	159.6%
回答者数	406	100.0%

問8 買ったことのある方は、購入理由を教えてください

	N	%
安全性を重視して	282	69.5%
自分や家族の健康のため	227	55.9%
おいしいから	115	28.3%
有機野菜の生産農業を応援したいから	83	20.4%
地域の農地や自然環境を守るため	72	17.7%
栄養などの質を重視して	62	15.3%
その他	16	3.9%
わからない	4	1.0%
無回答	0	0.0%
合計	861	212.1%
回答者数	406	100.0%

問9 一般の野菜と比較して、美味しければ購入してもよいという有機野菜の価格を教えてください

	N	%
一般野菜と同程度の価格	160	24.8%
1.1～1.2倍	252	39.1%
1.3～1.4倍	130	20.2%
1.5～1.7倍	34	5.3%
1.8～1.9倍	2	0.3%
2倍以上	5	0.8%
わからない	34	5.3%
無回答	27	4.2%
合計	644	100.0%

問11 野菜の栽培方法に求めるレベルを教えてください

	N	%
有機JAS農産物の認証を受けたもの	87	13.5%
農薬をまったく使わない	104	16.1%
化学肥料をまったく使わず、有機物施用(堆肥)のみを使用	114	17.7%
環境こだわり農産物(農薬や化学肥料5割低減)の認証を受けたもの	182	28.3%
栽培方法は特に問わない	78	12.1%
わからない	59	9.2%
無回答	20	3.1%
合計	644	100.0%

問13 飲食店で、有機野菜を使ったメニューがあれば注文しますか？

	N	%
積極的に注文する	126	19.6%
どちらかといえば注文する	377	58.5%
注文しない	20	3.1%
わからない	106	16.5%
無回答	15	2.3%
合計	644	100.0%

問15 有機野菜を使ったメニューは相対的に高い価格になることは納得できますか？

	N	%
納得できる	204	31.7%
ある程度なら納得できるので	403	62.6%
納得できない	12	1.9%
わからない	9	1.4%
無回答	16	2.5%
合計	644	100.0%

問10 有機野菜で美味しければ購入してもよいというものを教えてください

	N	%
大きさの不揃い	548	85.1%
曲がり等の変形	518	80.4%
2.3か所の小さな虫食い	228	35.4%
小さな割れや表面のヒビ	201	31.2%
購入しない	11	1.7%
わからない	12	1.9%
無回答	8	1.2%
合計	1526	237.0%
回答者数	644	100.0%

問12 有機農業の推進において期待することを教えてください

	N	%
安全・安心な農産物の提供	535	83.1%
新鮮な美味しい農産物の提供	427	66.3%
食と農に関する知識・情報の提供	152	23.6%
有機栽培に適した土づくり、土の提供	149	23.1%
生産者と消費者のつながり強化	130	20.2%
バイオマス資源(食品廃棄物等)を使うことによる資源循環型の地域づくり	107	16.6%
生物多様性の保全・環境負荷の低減	61	9.5%
農産物の高付加価値化	41	6.4%
その他	9	1.4%
無回答	6	0.9%
合計	1617	251.1%
回答者数	644	100.0%

問14 飲食店で、有機野菜を使っていないメニューとの価格差が何倍までなら注文しますか？

	N	%
同程度の価格	134	20.8%
1.1～1.2倍	257	39.9%
1.3～1.4倍	143	22.2%
1.5～1.7倍	39	6.1%
1.8～1.9倍	3	0.5%
2倍以上	3	0.5%
わからない	47	7.3%
無回答	18	2.8%
合計	644	100.0%

【店舗用 調査票】

属性

1. 経営形態 (単一選択)	1. 個人	2. 法人	3. その他
2. 提供しているメニューのジャンル (単一選択)	1. 和食	2. 洋食	3. 中華
	4. アジア・多国籍	5. 創作料理	
	6. ビュッフェ・食べ放題	7. 居酒屋	
	8. 焼肉・ステーキ	9. お好み焼き・粉物・鉄板焼き	
	10. 喫茶・カフェ・軽食	11. スイーツ・ベーカリー	
	12. デリバリー・テイクアウト・惣菜・弁当		
	13. その他		
3. 店舗の所在地 (単一選択)	1. 長浜	2. 浅井	3. びわ
	4. 虎姫	5. 湖北	6. 高月
	7. 木之本	8. 余呉	9. 西浅井
4. 中心客層の性別 (単一選択)	1. 男性	2. 女性	3. 概ね半々
	4. わからない		
5. 中心客層の年代 (2つまで選択)	1. ~10代	2. 20代	3. 30代
	4. 40代	5. 50代	6. 60代
	7. 70代~		
6. 中心客層のグループ属性 (2つまで選択)	1. ひとり	2. カップル	3. ファミリー
	4. 友人・知人	5. 職場関係	6. その他
7. ランチ平均客単価 (単一選択)	1. ~500円	2. 501~700円	3. 701~800円
	4. 801~900円	5. 901~1,000円	6. 1,001~1,300円
	7. 1,301~1,500円	8. 1,501~2,000円	9. 2,001円~
8. ディナー平均客単価 (単一選択)	1. ~1,000円	2. 1,001~2,000円	3. 2,001~3,000円
	4. 3,001~4,000円	5. 4,001~5,000円	6. 5,001~8,000円
	7. 8,001~10,000円	8. 10,001円~	

質問項目

1. 野菜の仕入先の決定は? (単一選択)	1. 自店で決定	2. 本社で決定	3. その他
2. 料理を調理・提供する際、一般的なレシピと比較した野菜の使用量を教えてください (単一選択)	1. 多く使用	2. やや多く使用	3. やや少なく使用
	4. 少なく使用	5. 特に意識していない	
3. 長浜市産の野菜に対する今後の意向について教えてください (単一選択)	1. 積極的に使用	2. 機会があれば使用	3. 特に考えていない
4. メニューに有機野菜を使用したことがありますか? (単一選択)	1. 定期的に使用している	2. たまに使用している	
	3. 使用したことがある	4. 使用したことはないが興味はある	
	5. 使用したことがなく興味もない	6. わからない	
5. 一般の野菜と比較して、美味しければ購入してもよいという有機野菜の価格を教えてください (単一選択)	1. 一般野菜と同程度の価格	2. 1.1~1.2倍	
	3. 1.3~1.4倍	4. 1.5~1.7倍	
	5. 1.8~1.9倍	6. 2倍以上	
	7. わからない		
6. 有機野菜で美味しければ購入してもよいというものを教えてください (複数選択可)	1. 曲がりなどの変形	2. 大きさの不揃い	
	3. 小さな割れや表面のヒビ	4. 2、3か所の小さな虫食い	
	5. 購入しない	6. わからない	
7. (問4で1.2.3と回答した方) 有機野菜を仕入れる際に重視するポイントを教えてください (複数選択可)	1. 味		
	2. 価格		
	3. 生産者の理念や人柄		
	4. 産地		
	5. 供給体制、事業規模		
	6. 発注や支払など事務手続の方法		
	7. 生産方法		
	8. ブランド、知名度		
	9. 自社、自店からの距離		
	10. その他		
	11. わからない		
8. (問4で4.5.6と回答した方) どういうきっかけがあれば、今後有機野菜を積極的にメニューに使用できますか? (複数選択可)	1. 価格が比較的安く入手できる		
	2. 安定して仕入れができる		
	3. 地元で仕入れができる		
	4. 仕入れができる有機野菜の種類が増える		
	5. 有機野菜を売ってお店が増える		
	6. 有機野菜の認知度が上がる		
	7. 有機野菜に関する知識が浸透する		
	8. イベントなど直接購入する機会が増える		
	9. その他		
	10. 使用しない		
	11. わからない		

平成 28 年度 長浜市有機農業推進協議会委託調査
長浜市有機野菜に関する意向調査実施報告書

平成 29 年 1 月

株式会社中広 メディア戦略室 フリモ・AR 課

問い合わせ先

長浜市産業観光部農政課

電話：0749-65-6522 FAX：0749-65-1602